

【全体振り返り】

- ① 津市市民活動グループ森の劇場プロジェクトは、2020. 4月1日にNPO 法人格を取得しました。今後、担う役割は拡大、継続の必要性が予想されるための取得でした。
- ② (活動目的)『加速する技術革新による人間力の低下や、自然環境破壊に拍車がかかる現代、津市文化創造事業の中で、「津市総合計画」「劇場法」文化芸術基本法、SDGs を踏まえ、公共文化施設の中に多世代多くの人が利他的役割を循環させることのできる仕組みをつくり、集う人は感性や審美眼といった生きる力を養い、より良い社会を探求する喜びを共有しながら、それぞれの人権を尊重することと自然と共存することをたのしめる、健康で幸福感の高い地域づくり、人づくりを通して「笑顔あふれ幸せに暮らせる津市」を実現することに寄与する。』

硬い文章ではありますが、法人格取得前段階の実績から言葉を選ぶことができます。
 森の劇場プロジェクトは、津市の模索する文化政策の中から生まれた活動であること。
 そして実際に、対象範囲は、「津市」で精いっぱい、などが設定理由です。
 津市文化創造事業というのは、劇場法・津市総合計画に則って公共文化施設を当事者市民が活用しましょー！という内容です。(^^)/

(目標)『産学官民の関わりの中、市民が主体となつたのしみながら利他力を活かすことにより、地域の課題を解決する能力を持ち、魅力的な地域色を生み出すことのできる、社会包摂型公共文化施設を実現すること。』

(理念)『「愛と平和」に満ちた持続可能な希望と活力あふれる未来づくりに貢献する。』

(`・ω・´)ゞ (^^)/

と、NPO 移行時に、活動の将来性を予測し、上記のように表しました。
 昨年度2月のスタディー資料、今年度6月説明会資料にも掲載しています。
 少しずつ実体験と共に言葉を模索していただけると最高です。

- ③ 新型コロナウイルスの世界的感染拡大が起こり、現在も混とんとしています。あらためて、地域に根ざす市民が行う市民文化政策活動(津市文化創造事業)の必要性を実感した一年間でした。
- ④ 津市文化創造事業は、コロナパンデミックにより中止となる。令和2年度活動開始20日目のことでした。中止となった経緯には疑問が残る。今後、市民が直接かかわる参画や協働という活動の方法や、文化事業といった抽象的な事業体系に対する官民双方の認識の共有は重要事項となる。

現在その確認作業を行っている最中で、事業の委託確定はしていません。例年より活動の詳細な内容を決定するのは遅れますが、公的活動としてきちんと活動が活かされるために、官民の認識確認は重要なことですので時間をいただいています。

(`・ω・´)/

- ⑤ コロナ禍、必要なこと・実施可能なことなどを見定めながら、コロナ対策という意味でも、活動縮小、まず一人の目で確認できる範囲で活動を継続。結果、社会の情報の偏りや不透明さにも改めて気づき、まず一人ひとりが感じて・考えて・他者と話し合って・共有者と行動を起こし(人間の機械化防ぐ)、振り返って次に進むという、地域に根ざす市民活動の必要性が目に見えてくる時代になる。

不安定になる時代を予測して始まったこの事業！
 気持ちを新たに、面白がって、表現(活動)して
 いきましょう~(^.^)と呼びかけさせていただきます。
創意工夫してなんとか活動をつなぐ ⇒ 継続する
次年度は、両極的対応思考の活動内容が大切
 (大胆で繊細、新しくて古くから残る考えを意図的に
 取り入れるといったバランス調整が大切と予測)

【各活動総括】・・・正直なところ、成果を求めるといった興味はない。舞台のような特別な瞬間に誰もがベストを尽くしたいといつも思う。

事業名	事業内容	実施方法	成果	課題	改善策/特記
活動推進事業	森劇 P 活動説明会	6月27日(土) *通常1回/年、4月に行っている。 *21名参加	・会員の活動内容理解に繋がっている。 ・新規入会者：6名	特になし	・次年度説明会は4/24(土)AM 実施予定。
	森劇スタディー (企画事業の分析や報告、文化政策勉強会、社会貢献活動意見交換会)	8回/年 開催 *基本的に9回/年 第四(木) *今年コロナで4月の会中止 *延べ65名参加	・非日常的(メンバー・意見交換内容)な、生活環境全般の課題意識や解決意識に触れる、安心した情報交換の場になっている。(※1月にアンケートした結果より) ◆個人個人の生きるモチベーションアップにつながると嬉しい。	文化政策といった勉強会の継続開催や個人の実験企画提案の機会が中々取れない。	⇒改善策として別蘭に令和3年活動方法に提案
	森劇 P 総括	3月13日(土) *1回/年 3月実施	・大ざっぱな年間活動の確認、次年度事業内容の共有。	特になし	・メンバーの意識アンケート大変参考になる。

<p>子どものための 文化芸術体験事業 「子ども里山 そうそう学校」 (生きる力の成長 に助力)</p>	<p>【自然体験教室】 (自然環境の中にゆ っくり身を置き、自 分以外の多くの生き 物と出会い<自然環境 を知る>、全身で感じ 観察する経験<芸術的 審美眼の基礎>を積む、 生きる力基礎教室)</p>	<p>・7月～10月 の日曜日を利用 (計8回計画) ↓ (計5回実施) *台風などによ る中止 延べ42名参加 (定員40名)</p>	<p>・特にコロナ禍の今年、子ども達の身 心の解放されていく様を単発の活動 の中でも見ることがあった。 ・牧場という営みのあるフィールド では、牛の身体や生活について多く質 問が出ていた。 ・時間に制約のない山の中での遊び は、まるで創作芝居のようにみんなに 役割ができ限りなく展開されるよう だった。 ・山の中の過酷な環境(足場の悪さや 暑さ、)に躊躇することなく、任され た仕事をこなしていくさまがあった。 それら子どもの様子は、 好奇心・思考・想像力・実現力、肉体 鍛錬といった成長期に欠かせない生 きる力を使う活動となった。</p>	<p>⇒営みが現実にあるフィ ールドが特によい。 ⇒時間の制約から解放 されるには、欲を言えば 5時間の活動設定でも時 間は足りないくらいに、 子ども達の体力を感じ る。</p>	<p>⇒連続講座に関しては特に そのようなフィールドを探 していく。 ⇒経験者対象の講座なら ば、そろそろキャンプ実施 の時期か? もしくは現場までトラッキ ングもよい。(検証済) (特記)コロナの影響で、子 ども里山そうそう学校は中 止、参加資格を里山学校経 験者とし少人数制で実施し た。</p>
	<p>【舞台表現教室】 (同じ空間の中で、 身体を響かせてみよ う、響きを感じてみ よう、黙々と取り組 んでみよう。) ・日本のまつり芸能 ↓ 能楽(仕舞)</p>	<p>・7月末からリ ハーサル開始の グループと、11 月から参加する グループの二組 13人で実施。 (定員:16名)</p>	<p>・姿勢が良くなった。日本の所作の美 しさが見られた。(日本文化教養) ・更に良い方法を探る様子が見られ る子が出てきた。(可能性の気づき) ・最終目標の明らかな舞台発表は、観 察力、集中力、プライド、計画力、美 意識を育てる様があった。(舞台裏ス タッフからの評価含め)</p>	<p>・公的な文化事業は、現 代の子どもの将来的な教 養となり生きる助けにな ることを願えるプログラ ムが良い。古典芸能を身 につける経験の場にする ことは子どもの財産とな ると同時に、地域にとっ ての公共性・公益性が高 い内容だと感じた。 ・舞台活動の意義も含 め、価値の共有が大人同 士に重要。</p>	<p>(特)津市に優れたプロの 能楽師が在住しているこ とは津市としての大きな宝。 公立能楽教室があっても良 いと思う。↓ ここ(公的舞台経験の場)で の経験は、専門的に見ると 芸能の基本に触れること が何より人生の財産にな ると感じた。 ⇒ゆるやかながらまめな大 人同士の意思の疎通を図 ることが大切。</p>
<p>大人のための 文化芸術体験事業 「大人も里山そう そう学校」 (生きる力の再生 に助力)</p>	<p>【山の風club】 (里山ばんざい芸術 祭のそうそう活動) ・和太鼓 ・謡 【山歩き発見クラブ】 4回計画、すべて中止 (台風等)</p>	<p>・7月末からリ ハーサル開始。 6名の参加 (定員:8名)</p>	<p>・活動目的の共通理解がゆるやかに できたことや、みんなて意見を出し合 う創作活動が、お互いを尊重できる、 良い時間をつくり出したと感じる。 ・舞台に立つという非日常のプレッ シャーは、「頑張る」という非日常的 モチベーションを生み、無条件の喜 び、喜びの共有となった。 ・能楽師や地域の子とも達とも無条 件に協力し合える喜びがあった。 ・基礎的な身体運動は運動不足な現 代、単純に身心の調整となった。 (本番後のアンケートより)</p>	<p>・特になし ↓ ・忙しい日常の中、リハ ーサルの時間設定等もよ かったと思う。 2回/月 90分 最終月、1回/週 90分</p>	<p>(特)公民館の和太鼓を好 意で貸していただけたこ ろが実現の大きな理由。 やってみて、体・頭・心に 和太鼓は大変良い活動だ った。可能な限り継続したい。</p>
<p>そうそう活動アウ トリーチ事業</p>	<p>【河芸公民館】 声をたのしむ創作倶 楽部</p>	<p>・10月～ 1回/月、計3回 5人の参加 (定員12名)</p>	<p>・予定を変更して、身体のマインドフ ルネス呼吸法や 背骨調整体操を実 施。コロナ自粛の身心ストレス解消に なったなど意見をいただいた。</p>	<p>・特になし(外部依頼で あるため、その趣旨に則 る)</p>	<p>(特)コロナにより、5～9 月までは中止となった。 12名の申し込みがあった が辞退があり5名で実施。</p>
<p>市民による舞台芸 術創造事業</p>	<p>ようこそ森の劇場へ 「里山ばんざい 芸術祭」</p>	<p>12月6日(日)</p>	<p>・今年!参加市民も舞台実演活動家 同士も、劇場が果たしていく使命(出 会い、意思の疎通、そうそうを生む場) を確認し合えた。 ・複合空間の利用からも、安心できる 空間、緊張をほぐしてリセットする空 間の必要性の高まりを感じた。(コロ ナ禍、特にだろう。)</p>	<p>⇐市民の市民による、よ り良い未来をつくってい くまつり場の創作活動 は、未来への投資事業と もいえる。冷静に、しか し創意工夫して実施す ることこそが、大切な繋 がりをお忘れなでいら れる方法だと思ふ。 ・事業の土台的必要事項 の共有方法を持つ必要 がある。(市民、行政とも)</p>	<p>(特)公益財団法人 三菱 UFJ 信託地域文化事業財 団様より、助成を受け実 現した。 ⇐ずっと試行錯誤、実験、 チャレンジが必要かと思 う。 ・面白がれる健康⇐文化 芸術の存在 ⇐大まかなマニュアルを 作成した。*芸術祭以外 の活動に関しても。</p>
<p>文化・芸術・地域貢 献活動支援事業</p>	<p>実施ナシ ⇐自立事業</p>				

【その他の活動として：OGグループの活躍】 (!注!) この内容共有は、次年度の活動方法提案の例とします。

(この事業に関して)

今のところ森劇活動に含めず単年度活動としたほうが自由度が高いのではないかと考えています。

ここに記するような詳しい内容共有は、当事者しか実感できないことだと思うんです。(・ω・)う〜ん。それで、次年度のボランティア活動企画の募集へ繋がります。 よろしくお願ひします。

(2020年活動内容)

- ・ 11/5：市長訪問「一緒に考えたい公共文化施設の活用」
- ・ 12/6：芸術祭において「里山ポスト」「森劇SHOP」の運営

(共有したい事項)

●子どもたちの発言から●

- ① 子ども達は、森劇の魅力について、自分の役割を持ち、それを自分で選択できるところだと言う。⇨これは、大人とて同じことだと思う!!
- ② 自分たちの未来にとっても興味を持っていること。⇨大人は自分以外の未来のことも考えられることをしていく必要があると思う、というのが森劇。

森劇の役目

子ども達に良い機会になるようなことが巻き起こったとき声をかける

↓

タイミングが合えば子どもたちが考え活動する

↓

それを振り返る時間は大切に、考えたことを確認し、いろいろな人の意見を知り、自分の考えを認識する機会を提供

↓

子どもたちの実体験を経た意見を社会に紡ぐ努力(大人も同じですが、思考と行動のバランスがいいと利他的な好意的な意見が出てくる。それをつなぐ)

↑

これが今のところ、森劇の役目か?と思う。単に活躍の場の提供ではない。

大人の役目

●子ども達の発想や方法を潰すようなことのないように努力する(効率的な指示や、常識的な押し付け)

↓

この2点は相反するようで両方必要

↑

●大人としての(実体験を持つ価値観)考えは、活動の中に一緒に盛り込んでいく必要があるように感じた。

・今年のOGグループ活動を通してのまとめ・

森劇の中で多くの大人と出会っていろいろな価値観を味わってほしいと願う。

しかし、対人の活動をする場合、子どもは知らない人たち(子どもだけじゃないけれど・・・)、経験を持たない人たちと認識することも必要だと思った。

選択してより良い考えを導き出すことは対人の活動をするとき重要な要素。その選択に大人の意見が役に立てば良いと思う。

子どもの自主性に任せようという言葉があるけれど、放任、丸投げ、と紙一重、そうならないように注意したい。

活動に、想像(予想)・計画・段取りは不可欠、何よりのそうぞう活動の実践の場ともなれる。 ま、長い目で。

*子ども達の活動に限らない。そうぞう(想像×創造)活動の場は、よく感じ考えた意見を出しやすい場でありたい。

【さて2019年度の活動総括を思いだす。】 ⇨ 2020ちょっと置いておくことにしていたことです。

●令和元年の総括から今年度に向けたイメージ劇場は、“生きる架け橋となる劇場”のそうぞうでした。神社やお寺の役目を果たす社会包摂劇場。

今年にぴったりの言葉が生まれましたが、どこもここも劇場は閉鎖されました。社会包摂的劇場づくりが進んでいる自治体はなかったということがわかりました。 いや!こんな時だから劇場を使おう!という共通認識が育っていなかったというのが正確な表現でしょうか?

●そして、キーワードが

「トライ&エラーを共有し、一人ひとりがプロフェッショナル市民を目指そう」でした。これは、新しく担当活動をやってみませんか?という提案でもありました。 森劇カフェ ほか、森劇スタディーや 単発講座も新しく企画運営が成される予定でした。

で、OGグループの内容共有(!注!)です。実践の中の実感を共有していく人(企画運営を行っていく人)が出てきて良い!という時期を森劇は迎えているのだと思います。 It's "THE TIME". です。樹は熟してきている(ライオンキングのおばば)と思います。 急ぎません、その時を感じたらジワッと手を挙げていただきたいと思うのです。

*トライ&エラー：地域学で出てきた言葉で、複数で進むために必要な考え方。

*プロフェッショナル市民：プロ=フロント=前 フェス=語る、前に向かって語る、言葉に責任を持つ人、だそう。

これは、2021年度から、しばらく追いかけて続ける言葉になりそうです。

●2020年は、森劇活動第2期活動計画への一歩を踏み出そうと、津市文化創造事業の役割提案をしていました。見える事業と共に必要なこと。

・公共文化施設の指定管理者制度に関する仕様書づくりの研究(広く多くの人に地域の市民文化政策に興味を持ってもらう理由や、市民が参画できる道筋をつくる目的)や、文化条例の評価基準の見直し研究。(数値目標からの脱却、より良い事業が起こっていくように。)

・津市独自の、地域文化芸術コーディネーター輩出方法の模索

【令和3年度の活動方法改善提案】

① 活動実践の場をつくる。

現在実施している森劇Pの活動内容は、今後さらにニーズが高まると思われます。

しかし、現時点では公的（公共文化施設の活用を視野に入れた社会貢献できる活動）事業を中心に考え、丁寧に実感・納得を共有しながらの企画・運営としたいので、事業拡大は望めません（継続して責任が持てる人材が少ない）・・・ということは数年後には高齢化活動となりますし、チャレンジしても良い時期が来たと感じます。

それで、興味と環境がかなう人があれば、実践練習をしてほしいと思うわけです。（コーディネーターの役割を果たす勉強を含めて）

↓

新しい自分の企画をカタチにしたい場合、仲間が必要です。宣伝も必要です。実績も必要です。それは、何かを試しながら見出していくことが今のところ最も良い方法だと考えます。

資本をかけて利益を求めることが可能な場合は、仕事ととらえて行うのが一番良いと思うのです。

【活動の区分け】

	仕事	半社会貢献活動 （森劇の有償活動）	ボランティア活動 （森劇の活動）
継続の活動	各自それぞれの仕事	森劇の中の津市文化政策に関わる活動 ・子ども里山そうぞう学校関連事業 ・大人里山そうぞう学校関連事業 ・そうぞう活動アウトリーチ事業	森劇の土台となる事業 ・活動推進事業（説明会、総括会、森劇スタディー） ・芸術祭事業（みんなで未来を考えるまつり場づくり）
新しい試み			<p>●<u>自分のやってみたいこと、好きなこと、利他的なこと、資格か十分な経験を持つ内容を募集します。</u></p> <p>↓</p> <p>○社会福祉協議会や、地域コミュニティや…に宣伝してみようと思います。 ○森劇内で、協力者を募集したり、、、どうですか？</p> <p>↓</p> <p>●内容を森劇スタディー内でたのしく検証してみたい。</p> <p>↓</p> <p>（実施する人にとって）</p> <p>◆自身の仕事や、生活の栄養となる。（なりますように。）♡ ◆新しい仕事へと発展してもいい。♡ ◆地域活動企画運営の練習ができる。♡</p> <p>↓</p> <p>（森劇にとって）</p> <p>▲継続できる責任者のいる、新しい半社会貢献事業が生まれたら素敵。♡♡ ▲他人のプランを手伝っているうちに、新しいボランティア活動が生まれたり♡♡。 ▲そうなれば、喜んでくれたり助けられるコミュニティが増えることになる。♡♡ ▲プロジェクト自体の社会貢献が高まる。♡♡ ✦地域文化芸術人材センターみたいなことも素敵です。✦</p>

② 森劇スタディーのスタイル提案

今年良かったこととして、メンバーの持ちこみ企画の実施で、「防災」という意識の共有や意見交換ができたこと。と、メンバーの仕事の中から、今の社会の課題に気づくことや考えを複数で自分事として意見を出し合うといった、何か解決策を練るような時間でなく、誰かの考えを聞き、自分の考えに触れ、改めて声にしてみるといった、ある意味とりとめもない時間の必要性を感じた。

次年度、安心して本気で語り合える（内容の提案なども募集したり）時間を中心に、報告事項や文化政策に関しては要点を絞り込んで短い時間で共有できるように努めてみたいと思う。

また課題としての、「文化政策といった勉強会の継続開催や個人の実験企画提案の機会が中々取れない」に関して。

- ・文化政策勉強会に関しては、ポプラ身心育成研究会が主催し『講（相互扶助の考えでメンバーで経費を賄う）』のシステム試しながら中川幾郎氏（公共文化政策専門家）をアドバイザーに1年間、指定管理者制度というシステムに関して学んでみようと思います。

その中から、プロジェクト全体に共有が必要と思われる内容をスタディーに提供したいと思います。

理由に、これまで専門家によるセミナーなどの開催こそ、市民に向けた文化政策の必要性共有のため、公費で開催すべきと企画したりしましたがまだ不向きな時期と判断しました。けれど第二期活動計画には専門的な勉強が必要です。

これも今後の活動のモデルケースとして参考にしてみたいと思います。

また、中川先生が三重に来られるような時には誰でも参加できるように案内しますのでタイミングが合えば是非参加してみてください。

- ・個人の実験企画提案に関しては、ボランティア企画募集をしてみたいと思います。（提案いただいた企画は、スタディーの中での試みも可能なら組み込んでいきたいと思っています。）

◀ 以上から、活動アンケートへの協力をお願いします。♪▶ ④